

会員数(53・10現在)

逗子地区 125名

栗山地区 211名

大船地区 75名

計 411名

吟道月報

日本詩吟学院岳風会認可
社団法人 神奈川 碩心会 発行

53・10月

第75号

発行者

根岸晃岳
編纂 梁風
中村元

慈鳥夜啼

中村 幸風 (堀内支部)

ある日のこと母鳥が死んだ。淋しい林の中で子は母を慕って毎晩毎晩哀しく啼くのであった。あまりにその声が哀しいので、これを聞く人達までが涙を流して「ああ鳥でさえその母を失って、こうまで悲しいものなのか、どの鳥にも母のない鳥はあるまいが、思うにこの母鳥は雨の日も風の日も寒い日も暑い日も苦難と斗ってこの子鳥を育てたのであろう。子鳥は七の深い慈恩を忘れることができないで、今少し母鳥を慰め養ってあげたかったと悲しんで啼いているのであろう」と語りあうのであった。

始めてこの詩を勉強した時、何故か心を打たれるものがあり、その後二度三度と吟じていると早速した母の面影が自然と浮んできて仕方ない。

貧しさの中に大勢の子供を守り、瘦身にむち打ち、ひたすらに働きつづけ、終戦と同時に力尽く、幸い無事復員した私達兄弟は、これから代って一生懸命働くから、どうかゆっくり養生してくれと願った甲斐もなく、五十を待たずに黄泉の国へと旅立ってしまった。あと一年生きていてくれたら、あと半年元気でいてくれたら少しは恩返しもできたろうにと、茶毗に付す薪をリマカーに積んで火葬場に行く途々泣いた時のことが昨日のことのように浮んでくる。

昨者、白楽天は慈鳥の啼く様に感動し、この詩をつくられたものですが、勝手に異った状況之心に描き吟ずることは作者に失礼かと思ひますが、その心、感情は正しく理解した上で吟ずることは許されることと都合よく解釈し、母の冥福を祈ると共に正しい道を歩むべとして、折にふれ静かに吟ずる事を重ねて行きたい。

(投稿のお願い)……広報部

前述のような私の好きな詩、又は思い出の詩等々を毎月連載してゆきたいと思ひますので皆様奮って寄稿して下さい。順次発表したいと思ひますが、とりあえず次の方々にお願いしたいと思ひます。

- 鈴木孝風氏 守谷宗風氏 杉山雪風氏
- 佐久間溪風氏 石渡桂風氏 広瀬翔風氏

各教場の教場風景、特色、催し事等の教場使用をお寄せ下さい。

▼逗子市文化祭詩吟詩舞の会

とき。十月二十九日(日)午後十二時半～四時半
ところ。逗子市図書館ホール三階

▼葉山町文化祭詩吟詩舞の会

とき。十一月三日(祭) 午前十時～午後四時
ところ。葉山町福祉会館(逗子駅より山手廻りバスにて葉山小学校前下車・すぐ)

▼大船地区温習会

とき。十一月十二日(日)
ところ。柳島記念館(茅ヶ崎駅北口下車・浜見平団地行バス終点下車約10分徒歩にて会場まで約10分)

▼秋季許証授与について 許証部

大船地区温習会の際にさきに合格された方の許証授与が行われます。奥伝の方は個人別に授与されますので、都合のつく限り出席して下さい。

その他は代表の方がお受取り下さい。

あれでも奥伝

会長 根岸 晃 岳

最近ッあれでも奥伝ッというような言葉を使
奥伝より低役位の人が云っているのを耳にす
ることがある。けれども奥伝になるには入門
以来最低七年半の長年月を必要とするレ、六
役取得後の二年間は90%の出席率が要求され
る。総本部の許証規程でも期間以外に「律詩
、古詩、和歌、俳句、新体詩等の吟詠の妙味
を体得したと認められる者」という内容が要
求されている。又県本部の課題も総本部の規
定にのっとった十題の暗記、吟詠が要求され
ており、傍からみるほど祭なコースではあり
ません。成程吟力等に相当中はあるでしよう
が下手？は下手なりに長い間勉強している人
は吟法にも自然と風格があります。吟道には
柔道、剣道、又は碁、将棋のように試合で勝
負を決定するような昇段方法ではありません。
ッあれでもッなどと、他人の批判より先に吟

道を通じて立派な詩に接し自分自身の人格、
吟力をつけることが大切でしょう。即ち上手
になる以前に、詩の心を学ぶとることです。
ただレ四十六年以降は以前より大分規定年
数が早くなっています。何時も申しあげてい
ますが取得された役位位の實力はそれからの
努力にかかっているということを銘記されて
他人の批判より自分自身の吟道の勉強をされ
ることを望みます。終りに私のこの苦言は特
別頑心念の人が云っていたというのではない
ことを附言します。

以上

秋の日に

庭の金もくせいのこととはかたなく乞う秋の
昏下り、〇〇支部のNさんが詩吟の用でお見
えになった。話はおのずと詩吟の話になり、
いつレか秋の文化祭の話へとはずんでいった。
Nさんは御夫婦で吟道に励まれている方で
Nさん曰く、私達もこの世の思い出に、来る
べき文化祭に二人で連吟でもやってみよう

いう話がまとまったのだが、やってみると奥に難しい、どうしたらいいでしょうねーとい
 う・私達夫婦も同じ吟道を歩む者だが、連合を
 吟はむづかしくついぞやった事がなく、自信
 をもったお答えができなかった。昔は文が一
 歩退くといわれてきたが、まあお互い一音
 づつゆづり合うことでしようねー位しか答え
 られなかった。そして夫婦であそこはこうし
 て、ここはああしてと楽しい意見の喰い違
 いもあるとか...その様な姿をお嫁さんは温かく見
 守っていられるとか、私までほのぼのとし
 気持ちになり、お二人のいつまでも健康でい
 られる事を祈らずにはいられます。思
 うに頑心会には御夫婦でやっていらっし
 ゃる方の何と多いこと...夫婦円満は頑心会
 発展につながる事と自分なりに結びつけて
 ました。

新入会

(吟甫支部)

隈園晴夫

横須賀市西逸見

電 0468 1241 4373

中村愛風

(逗子支部)

坂本

美津 鎌倉市山内 800
電 0467 1461 2308

(吟甫支部)

小島

文夫 横須賀市小矢部町 3513
電 0468 1361 2399

(下吉支部)

浜田

親也 横須賀市長井町 3562
電 0468 1561 5639

(大船支部)

勝

泰子 鎌倉市台 2151 15
電 0467 1451 7965

(逗子支部)

高橋智勢子

逗子市逗子 4615
電 0468 171 2078

()

星野

輝子 逗子市桜山 7117
電 0468 171 6517

()

田口千賀子

逗子市池子 2191 25
電 0468 173 2333

()

森

はるみ 逗子市逗子 4815
電 0468 173 1979

()

菊池

早苗 逗子市逗子 4171 15
電 0468 173 7400

()

土谷

純子 逗子市桜山 2121 2
電 0468 171 2694

()

水上

昌子 逗子市逗子 5112 4
電 0468 171 3527